

校長会報

第142号

宇都宮市立昭和小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
浪花 寛

印刷所
(有)正栄社印刷所

主張

新学習指導要領完全実施と働き方改革

栃木県小学校長会副会長

小森 厚



新学習指導要領完全実施を来年度に控え、その準備と働き方改革を同時進行で進めている学校が多いことと思えます。授業時数の増加・指導内容の増加、その一方で残業時間の縮小という相反する命題を同時に解決しなければなりません。これまでの学校は、伝統から、保護者の期待があるから、子どもたちのためになるから、みんなやっ

いるからなど、精選できない、こなすだけの学校行事が増える一方でした。このような学校文化を変えるには、何よりも校長の決意と覚悟をもったうえでリーダーシップが必要です。前年度踏襲を見直し、そもそも何のためにしているのか、他のやり方はないのか、本当に子どものためになっているのかを常に問いかけ、業務の削減、業務と業務の統合など仕事を増やさない工夫をしていく必要があります。本市では、校長会で情報を共有して、運動会、宿泊学習、学習発表会等の教職員の負担軽減策と、五時間授業の曜日を複数設定することで、放課後の時間を確保する働き方改革を進めているところでは、

クール導入に向けて、組織を検討し、準備しているところでは、コミュニケーションスクール導入に当たっては、学校の弱いところを補強して、地域コーディネーターや地域との窓口を確立することと、保護者・地域との連携・協働の取組で、地域とともにある学校・社会に開かれた教育課程の実現を目指したいと考えています。導入に際しては、負担増が心配になりますが、働き方改革の視点も含め、当事者意識を高めて、地域の実態に合わせた、充実につながる具体策を実践していくことで、デメリットよりも、より多く生まれるメリットを発揮できる、保護者・地域を含めたより強いチーム学校をつくりたいと考えています。

（那須烏山市立境小学校）

主張

「ワンチーム」の精神で

栃木県小学校長会副会長

池澤 満



この秋、日本で開催されたラグビー・ワールドカップは、日本中を熱狂の渦に巻き込んだ。以前から、ラグビー精神を的確に表した「ノーサイド」という考え方は、まさに日本人の心情に響くものがある。それと同時に、今回の大会で脚光を浴びたのが「ワンチーム」という言葉である。ご存知のとおり、ジェイミー・ジョセフヘッドコーチがテーマに掲げ、代表チームの結束力を高めていった。さて、我々が身を置く学校に目を向けてみると、「新学習指導要領の完全実施」「道徳や小学校英語の教科化」「プログラミング教育の導入」等、すぐにでも対応しなければならぬ課題が山積している。これらを、教師個人の力で乗り切るに

は、相当の時間と労力が必要で、教員が疲弊してしまつては元も子もない。そこで、必要になってくるのが「ワンチーム」の考え方である。ラグビーでは、フォワードとバックス以外に、選手の個性や体格等に応じて役割があり、それがうまく機能して初めて、チームとして力が発揮できる。学校もどうだろう。教職員一人一人の個性は違う。また、年齢・性別・経験年数も異なっている。校長として、それぞれがもつ「よさ」や「強み」を生かせるような学校経営をしていきたいものである。一方、様々な今日的課題に對して、各学校単位では解決できないことも起きている。そこで、頼りになるのは、各市町や県の校長会の存在だと思ふ。行政からの指示や支援だけに頼らず、皆が知恵を出し合い、力を合わせて解決していくところに、心強さや安心感を覚える。子どもたちの未来のために、校長会がワンチームになつて進んでいくことを願っている。

（小山市立小山第一小学校）

栃木県小学校長会中央研究大会

令和元年度の中央研究大会は六月二十八日(金)、栃木県総合教育センターで開催された。

一 開会

○開会の言葉

高島俊一 副会長

○会長あいさつ

浪花 寛 会長

○来賓あいさつ

池田 聖 県教育次長

二 研究発表

◇研究テーマ

「豊かな心を育てる道徳教育の推進―地域よさ・人を生かして―」

◇発表者

那須塩原市立西小学校 校長 木村加容子先生

◇発表内容

1 現状と課題

道徳の教科化とともに、新学習指導要領総則に「道徳教育推進上の配慮事項」として「家庭や地域社会との連携」が挙げられ、「道徳教育に関する情報発信」並びに「家庭や地域との相互連携」の必要性や有効性が示されている。地域の教育力を道徳教育の観点でどう生かすかを意識して教育課程を実施していくことが大切と考えられる。一方、那須塩原市では、平成

二十九年度から各中学校区で順次地域学校協働本部が立ち上がり、学校と地域とが目指すところを共有し児童生徒の育成にあたることになった。そこで本地区では、

2 研究の実際

この研究は、那須塩原市小学校長会が平成三十年年度から三年間で取り組むべく計画したものである。第一年度は、現状把握や情報交換、事例紹介等を中心に研究を進めてきた。

①現状把握のためのアンケート調査結果と研究協議

「特別の教科 道徳」の実施に関して市内二十一小学校・義務教育学校を対象に、各校の取組の現状や地域の教育力をどのように生かしているかなどについてアンケートによる実態調査を行った。その結果を基に校長の果たすべき役割と指導性について協議した。

○アンケート調査

(平成三十年五月実施) 各校の道徳教育推進状況

に関する四つの項目を挙げて調査した。その結果、地域の教育力は道徳教育の面でも大きな力になると考えられるが、教育課程の上でどのような生かすかは今後の課題であるとの回答が多くあった。

○研究協議(校長の果たすべき役割と指導性)

・全校朝会等で学校の重点目標となる道徳的価値について直接子どもに語りかける場の設定

・授業参観、学校公開、学校だより、HP、地域行事の挨拶等、機会を捉えて行う情報発信

・校内研修の充実と道徳教育推進教師や地域連携教員に対する的確な指示や環境整備、彼らの位置付けを明確にした校内体制の整備

・地域よさ・人を生かす視点を加えた道徳教育全体計画の見直しと教育課程の実施

②各校の実践事例

○教科化に向けた研修

大学の准教授を招聘し、提案授業をもとに教師の発問、児童の意見の生かし方、板書の工夫等を学んだ。

○全体計画の見直し

道徳教育全体計画に他教科との関連を示した一覧表(別葉)を作成するとともに、地域人材活用一覧表に道徳との関連を示した。

○情報発信

各学校で計画的に授業参観日や学校公開日に道徳の授業を公開した。評価には県のリーフレットを活用した。学校だよりやHPに掲載し保護者の啓発を行った。

○地域学校協働本部事業との連携

中学校区で道徳教育の重点目標を設定し、地域協働本部事業と連携しながら「さわやかサミット」に取り組んだ。「さわやかサミット」では、「あいさつでつくる地域の絆」をテーマに地域住民、保護者、児童生徒が一緒にあって地域の実際に関する情報交換を行い、課題解決に向けて協議した。参加者が当事者意識をもって課題を共有したことで、次の活動につながっている。

○地域行事を生かした取組

コミュニティ主催「子ども盆踊り」で行った地域との交流を生かし、地域住民の学校への思いを道徳的価値「郷土愛」「感謝」に結び付け全校朝会で校長の思いを伝え、担任はそれを深める指導を行った。道徳教育推進教師を中心に組織を生かし学校全体で取り組んだ。

○周年行事を生かした取組

周年行事に、道徳的価値「愛校心」「郷土愛」「感謝」を結びつけ、全校朝会で創立

記念行事の意義を校長が伝えた。各学級で道徳の授業で「学校を愛する心」を深める指導を行い、集会行事につなげた。その取組を学校だよりで地域や保護者に発信した。

3 研究の成果と課題

①成果

指導者を招聘しての校内研修、指導体制づくり、地域への情報発信等の取組を行うことで、教職員一人一人の意識が高まり、新学習指導要領が求める道徳教育の指導の充実につながっている。また、学校と地域の双方で道徳教育を意識し、児童の郷土愛が育まれた。

②課題

地域と連携した取組を道徳教育の全体計画に位置付けることや、各学校の特色に応じて誰がどのように地域との関わりをコーディネートするのか、体制、組織、役割分担を明確にする必要がある。また、地域との関係が希薄になっている現在、地域住民と子どもが互いに声を掛けられるふるさどづくりを意識して教育活動に取り組むことが大切である。今後は校長の果たすべき役割と指導性を、どの場面でのように発揮するのかを更に追究し、整理して実践していきたい。

4 提言

① 地域との連携を図りながら、地域のよき・人を生かした体験的活動を計画的、継続的に実施し、子どもの道徳的実践力を向上させる。

② 校長のリーダーシップの下、地域と連携・協働する教育課程を実施する。

③ 道徳教育に関わる計画的な情報発信と、学校と地域との相互交流の場の設定を行う。

三 講演会

○ 講師紹介

小森 厚 副会長

◇ 演題 「マンガのDNA」

◇ 講師 文星芸術大学学長

ちばてつや先生

◇ 講演内容

幼少期の思い出

幼いころを中国で過ごし、六歳で終戦を迎えた。両親は本好きで、中国の家にはたくさん本があった。寒くて外で遊べず、イソップ童話などを読んで過ごした。母は宇都宮市の出身とのこと。

漫画との出会い
漫画を知ったのは、日本に帰ってから。初めて見た漫画は、あぜ道に落ちていた何かのおまけで、世の中にこんな面白いものがあるのかと感動したが、母親に「漫画はだめ！」と火にくべられてしまった。その後は母に内緒で読み続けた。

漫画家になる

いろいろアルバイトをしてもうまくいかない私だったが、漫画だけは描けた。小さな出版社から「やってみるか？」と声をかけられケント紙を渡された。あるとき、「話を完結させて持っておいで。それができたら考えるから。」と言われた。百二十ページ描き上げて、一万二、三五一円。漫画家になるきっかけを作ってくれた石橋国松さん。恩を感じて、後に描いた「ハリスの旋風」では主人公を「石田国松」にした。

母は優しくなったが、内容が暴力的なものだと説教された。母が亡くなると、「自分の好きなものが描ける。」と思ったが、骨が抜けたように力が入らなくなった。体調も悪く、仕事を辞めていた時に文星芸術大学から声がかかった。母に呼ばれているような気がした。

漫画を教えるのは難しい。映画には原作があって、仕事を役割分担して作るが、漫画は全部一人で俳優を決め、場所や季節を決め、衣装を決める。人とけんかしないで済むが、ちよつと気を抜くと納得いかない作品になる。学生たちは苦しんでいるが、やりがいのある仕事と伝えている。あしたのジョー

担当者にボクシングの話

を描きたいと話したら、梶原一騎さんと一緒にやることになってしまった。梶原さんは自分が知らない裏社会の人間をよく知る人。「あしたのジョー」では力石の死が話題となり、寺山修司さんらが葬式をしてくれた。最近四十回忌を行った。皆がいつまでも思い出してくれる作品になったのは、梶原さんのおかげだ。幕引きの仕方に悩んだが「自分は真っ白な灰になるような生き方がしたい。」というジョーの言葉から、一気にラストを描くことができた。最後の場面でジョーは生きているのか死んでいるのかとよく聞かれるが、検死官に見てもらったら、「これは生きています。」と言われた。嬉しかった。

「ひねもすのたり日記」では、今の日常や中国からの引き揚げのこと、戦争は加害者も被害者もみんな犠牲者になることを伝えたい。

講演概要については、令和二年三月発行の「小学校長研修記録五十九」に掲載

池澤 満 副会長
高島俊一 副会長

閉会の言葉

○ 謝辞

池澤 満 副会長

高島俊一 副会長



栃の葉

栃木県教育委員会

新学習指導要領の全面实施に向けて

むことができ、理解を深められるよう、障害のある児童生徒への学習指導や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善など、様々な視点から解説しています。平成三十一年三月には、文部科学省から学習評価や指導要領の改善等についての通知が出され、指導と評価の一体化の観点から、学習評価の重要性や、学習評価を真の意味のあるものとするための基本的な改善の方向性等が示されました。学習評価については、「指導要領の手引」を年度内に作成するとともに、学習評価に関する資料を令和二年度に作成・配布いたします。

二年間の移行期間を経て、いよいよ来年度から新しい学習指導要領が全面实施になります。各学校では、年間指導計画の作成や新たに実施される、外国語、プログラミング教育への対応等、準備が進められていることとされています。「社会に開かれた教育課程」という理念の下で、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成できるよう、創意ある教育課程の編成をお願いいたします。

県教育委員会では、新学習指導要領の円滑な実施に向けた支援として、次のような取組を行っております。

まず、改訂の趣旨及び内容を周知するため、全ての教員に対して平成二十九年度から令和二年度までの四年度間で新教育課程説明会を実施しております。

また、長年発行している「現職教育資料」を、新学習指導要領についてシリーズ化し、発行しております。先生方が関心のある内容や教科等のポイントを手軽に読

現在、学校現場では「働き方改革」が推進され、業務の効率化が求められております。しかし、学校における働き方改革の目的は教育の質の向上であり、新学習指導要領が目指すものと軌を一にしております。学校の経営者である校長先生方には、教育の目的の達成のため、リーダーシップをいかに発揮していただくことをお願いいたします。



地区だより

宇都宮地区

本地区では、今年度から従来の十テーマによる班別研修から、令和三年度に開催される「第七十三回関東甲信越小学校長研究協議会栃木大会（関プロ大会）」でのテーマに準じた十二班の研修に変更した。そのうち本市の提案分を担当する四つの班は、当日の提案者と司会者を選出し、発表の内容の検討や資料の作成を行った。それ以外の八班は、例年通りの研修を進めた。

九月には、教育研究家の妹尾昌俊氏から「効果のある働き方改革に向けて学校と行政に必要なアクション」の講話を、十一月には、上三川地区校長会と合同で、株式会社フェドラの代表取締役陳賢徳氏より「社会が求める人材と小学校教育への期待」という講話をいただいた。

上三川地区

本地区では、研究主題を「家庭・地域・関係機関と連携し、児童の健全育成を目指す学校経営の推進」に設定し、町内各小学校で行われている連携の成果及び課題を整理・共有してきた。そして、今後の連携の在り方について、上三川町小学校長会研修会を通して研究を進めている。

今年度は、町内の小学校等に於いて、計六回の研修会を開催したが、各小学校の現状と実態に応じた様々な取組を共有することで、校長自身が自校の教育活動をこれまでとは違った視点から見つめ直すことができた。今後も、学校と家庭・地域・関係機関とのよりよい連携の在り方を模索しながら、児童の健全育成を目指す学校経営の推進に繋がっていききたい。

上都賀地区

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし、豊かな

心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし、鹿沼市・日光市の二市で連携して研修を推進してきた。

鹿沼市では、研究テーマを「共に学び続け、心豊かに生きる子どもへの育成を目指す学校経営の推進」、日光市は、「校長としての資質の向上と様々な課題への対応」学校経営・人材育成」と設定して研修を進め、年二回の全体研修会を通して学校経営の充実に資することができた。

芳賀地区

本地区では、研究主題を「未来社会を拓いていくための学力を育む教育課程の工夫」と定め、研究を推進してきた。

全体研修は年三回実施した。六月の第一回研修では研究についての方向性を確認し、九月の第二回研修では、各校の研究実践を持ち寄り、研究主題に迫るための「校長に求められる指導性」に焦点を当ててグループ討議を行った。各校の様々

な取組が紹介され、有意義な時間となった。

二月の第三回研修では、研修部長による研究発表をもとに、研究成果と課題を共有し、各校の次年度の実践に生かしていく。研究内容は研究集録にまとめ活用を図る予定である。

下都賀地区

本地区では、研究主題を「児童の生命を守る安全管理」とし、サブテーマを「様々な危機への対応と未然防止の体制づくりにおける校長のかかわり」として校長としてのリーダーシップの視点から児童の生命を守る研究を進めた。

また、「子どもの命を守る」と題し、栃木市在住の上野和子氏にご講話をいただいた。学童疎開船「対馬丸」に乗船し、生還した経験を持つ母である新崎美津子さんの体験に基づく貴重なご講話から、児童の生命を守るための校長としての使命について深く考えさせられた。

下野地区

本地区では、研究主題を「新しい知を活かし、豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」教職員の資質能力の向上を目指す校内研究・研修における校長の役割」とした。特に研修体制と組織づくりにおける校長の役割、研修時間の確保、教職員の参画意識を高める研修等について研究を進めてきた。

七月には、栃木市立不登校適応指導教室の琴寄裕光先生をお招きし、「不登校児童生徒の対応について」と題してご講演いただき、今後の学校づくりに大変参考になった。

小山地区

本地区では、二班に分かれ、A班は「教職員評価を生かした人材育成」ミドルリーダーの育成を中心に

く、B班は「授業力向上を核とした人材育成」という研究主題で研修を行った。一月の班別研究発表会でその成果や課題を確認することができた。

さらに、七月には学校経営実践発表を実施。九月には株式会社スタジオジブリ代表取締役社長の中島清文様をお招きし、「ジブリで働きながら考えたこと」の講話をいただいた。「研修」調査「研究」「厚生」の四つの専門部による研修等の事業も実施した。

●●●〔栃木地区〕●●●

本市小学校校長会では、研究主題を「新しい知を活かし、豊かな心をもった子ども」の育成を目指す学校経営の推進、児童の安全を確保し、自ら判断し行動する子どもを育てる学校安全の推進として研究を進めた。全体を「生活安全」「交通安全」「災害安全」「新たな危機事象」に焦点をあてた四班に分け、各学校の実践や課題を話し合った。それぞれの学校の課題を共有で

きたことも有意義であったと思う。

また、十一月には栃木市校長会として「栃木ゴールデンプレーブス」の寺内監督をお招きした。監督からリーダーとしての苦労話などを聞き、素晴らしい研修の機会となった。

●●●〔塩谷地区〕●●●

本地区では研究主題を、「生きる力を育み子どもの明日を拓く学校経営の推進」と設定し、全体と各市町に分けて研修を進めた。全体研修を、今年度から一回とし、七月二十四日に、スマイルコミュニケーション代表の小林里江氏から「部下に活かすコーチング」教える指導からの変化」と題してお話を伺った。また、市町別研修では、各市町が地域や学校の実態、課題に応じて実践的な研究を進めた。

「地区小学校長会研究紀要」にまとめた。これらの研究を、令和三年度関プロ栃木大会の「IV危機管理「健全育成」」の分科会発表につなげていきたい。

●●●〔那須地区〕●●●

本地区では、大田原市、那須町、那須塩原市の三市町でそれぞれ研究を進めた。

大田原市では、「キャリアステージごとの資質向上に向けた研修の推進」、那須町では、「効果的な教育活動を行うための学校の働き方改善」、那須塩原市では、「家庭や関係機関との連携による特別支援教育体制の構築と充実」というテーマで研究をし、十一月八日の地区校長会全体研修会において発表した。

また、同日の講話では、資生堂の人事部から杉山拓也氏を招いて「資生堂における人材育成」の話を行い、改めて校長としての役割や効果的な関与の仕方など、大変身のある研修会となった。

●●●〔南那須地区〕●●●

本地区では「情報社会を豊かに生きる子どもを育む情報教育の推進」を研究主題として年四回の研修会を実施し、情報ツールを生かした授業の

実践例や情報モラル教育、プログラミング教育への取組等について情報交換し、研究を進めてきた。

十一月の研究大会では、栃木県総合教育センター副主幹浦田英亮先生を講師としてお迎えし、本地区の研究主題と同テーマで講話いただいた。情報ツールの活用や情報モラルに関する内容で、本地区の研究推進に大いに役立つものであった。

●●●〔佐野地区〕●●●

本地区では、「新しい知を活かし豊かな心をもった子ども」の育成を目指す学校経営の推進、国際理解教育、外国語教育の視点から、を研究主題として、四つの班を編成して研究を進めた。

年間五回の班別研修会を開催して、各校での実践を基に協議を重ねた。学校間での情報交換を通して、自校の教育活動を見直す有意義な研修ができた。

また、十月には、天明鑄物師として活躍されている若林秀真氏から「天明鑄物の伝統を伝える」天命釜の

不思議」というテーマで講話をいただき、佐野市の伝統工芸についての教養を高めた。

●●●〔足利地区〕●●●

本地区では、「学校力を高め、新たな知を生かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営」を育の「横」と「縦」への広がりを見据えた学校経営の在り方」を研究主題として、「学校・家庭・地域社会の三者が連携・協働した開かれた学校づくり」「横」への広がりを、「子ども」の育ちの連続性を考慮した異校種間の接続（「縦」への広がり）の二つの視点から研究を深めた。

また、「カタツムリに聞けば」教育に携わる仕事の重み」と題し元教育長から、また「みんなで考える公共施設マネジメント」と題し財政活用課長から、それぞれ講話をいただき研修を行った。



豊かな心をもち 輝いて生きる子どもを育成を目指す学校経営

一人一人が主人公

矢板市立豊田小学校 加倉井 千秋

本校は、矢板市の市街から東へ5km離れた自然に恵まれた地域にあり、二・三年、五・六年複式学級で四学級四十四名の小規模校です。

教育ビジョン「ふるさとを愛する豊田っ子一人一人が主人公」のもと、少人数により一人一人が生かされることで「自分で考え行動できる子ども」を目指しています。縦割班を編成し、年間を通して様々な異学年活動を取り入れ、集団の中で自己を生かせるような活動を行っています。花壇整備や清掃、ランチルーム給食の他、福祉施設訪問、高齢者交流会なども縦割班で取り組んでいます。

生活科・総合的な学習の時間に位置付けた学校テーマ「チャレンジクッキング」では、年度当初の栽培作物を決定することから話し合いを積み重ね、一人一人の考えを尊重しながら活動をしています。今年度は、四グループ全てがさつまいもを栽培することになりました。グループごとに栽培・調理方法を調べ、植え付けから調理まで取り組んでいく一年がかりの学習です。課題を解決するために、学年のへだたりなく協力し、お互いを思いやるなど様々なことを学



チャレンジクッキング



感謝の集い

恵まれた環境の中で豊かな学びを体験し、生き生きと活動できるよう、今後もきめ細やかな支援に努めていきたいと考えています。

また、四・五・六年生全員参加による話し合い活動「豊田っ子総会」を児童会活動として位置付け、児童集会では一人一役として体験を積み重ね、自信をもてるようにしています。日頃、お世話になってる方々をお迎えしての「感謝の集い」では内容や方法を「豊田っ子総会」で決定し、準備から当日の運営まで全員で取り組みました。

みんなのために働く子ども

那須烏山市立烏山小学校 小泉 浩

本校は、東に八溝山地があり、市内を那珂川と荒川が流れている豊かな自然に恵まれた学校です。本年度で創立百四十六周年を迎えた児童数四百十名の歴史と伝統のある中規模の学校です。

本校の校歌は、唱歌「夏は来ぬ」の作詞でも知られる、歌人であり国文学者でもあった佐佐木信綱氏が作詞された貴重な歌として長く歌い継がれてきました。

その校歌の歌詞の一節にある「至誠一貫・勤労努力・協同一致」は、本校の校訓として児童・教職員ともにすべての活動における合言葉となっています。

また、本校の教育目標は、「自ら進んで学ぶ子ども、友だちを思いやる子ども、健康でたくましい子ども、みんなのために働く子ども」の四つがあります。知徳体の他に勤労意欲・態度の目標があるのは他校には見られないものですが、三つの合い言葉「至誠一貫・勤労努力・協同一致」の精神を具現化するものに他なりません。「至誠一貫」は真心を持って、正

直に生き抜くこと、「勤労努力」は地道にこつこつと働き、頑張ること、「協同一致」はみんなの心を一つにして、一生懸命取り組むことであると子どもたちには教えています。

三つの合い言葉は、始業式・運動会・創立記念遠足などの各行事において児童に話し、本校の伝統として意識をさせてきました。合い言葉の精神は本校の児童に息づく、何事にも全力でみんなが一致団結して一生懸命に取り組むというよき校風を作り上げています。

今後も緑化活動などを通して、働くことのうれしさと喜びを感じる子どもたちを育てていきたいと思えます。



みんなのために働く子ども

特色ある学校づくり

わくわくする学校をつくろう

鹿沼市立池ノ森小学校 島 一嘉

市の南東部、壬生町との境にある本校は、豊かな自然に恵まれています。地域に河川はなく、山王溜、大溜という溜池から流れる水を利用した、なだらかに連なる棚田に囲まれる、まるで浮城のような小学校です。また、平地林が点在し、それらは野鳥や昆虫、水生生物の絶好の住処となっています。

ひとつの自治会にひとつの学校。地域を挙げて学校を盛り立ててくれます。児童数は十九名。複式の少人数校です。児童は明るく素直で、仲良く、協力し合って生活しています。そのような中で、小規模校でしか味わえない特色ある学校づくりを実践しています。

環境学習「いけいけ池小たんけんたい」は、鹿沼自然観察会の方を招いて、本地区の動植物の観察を行いました。今年度は昆虫ではタガメやオオムラサキ、ルリボシカミキリやホウネンエビ等、鳥類ではキジやコゲラ、サンバ、ハチクマ等貴重な生きものを観察することができました。児童はこれまで見向きもしなかったいきものや周囲の自然に関心をもつようになり、環境問題も意識するようになりました。また、校外活動の度に交通安全、竜巻や雷時の対応等の安全教育を併せて行いました。

今年で三年目となる市外国語活動推進事業の指定では、ジョリーフォニックスの指導法を取り入れ、AL

Tとの対話やスモールトークを行いながら楽しく授業展開しています。また、ALTの来校する水曜日を英語の日とし、挨拶や健康観察、朝や清掃時の放送、給食のメニュー紹介等を英語で行い、習慣化を図っています。

地域連携では、自治会、地元中学校等と連携した「地域連合大運動会」の実施や、地元の方をご招待しての学年発表や全校英語劇の発表、学校圃場で収穫したお米を炊いて会食する「池小まつり」の実施を行っています。

本年度は東日本大震災以降使用不可となっていた、藤棚下の石のベンチを保護者や地域企業の協力を得て復活させました。復活を記念して行ったセレモニーでは、お囃子や風船アート、コンサート、スクールキャラクター募集等を企画しました。最優秀賞となった「もりん」を今後どのように活躍させていくか、今、わくわくしながら構想しています。



スクールキャラクター「もりん」



「たんけんたい」が行く

読書活動の推進

下野市立吉田東小学校 竹田 昌彦

本校は下野市の東部、真岡市に隣接した地域にあり、学区の東端に鬼怒川、西端に田川が流れています。また、南北約5km、東西約2kmの細長い学区で水田が多い地域です。上吉田村に化育学舎として創立され今年度で百四十六周年を迎えました。

特色ある教育活動として、児童の読書活動を推進しており、今年四月には「平成三十一年度子ども読書活動優秀実践校文部科学大臣賞」を受賞しました。ここではその主な取組について紹介します。

一 家読の実施
家読は週一回金曜日に実施しています。翌週月曜日には、クラスごとに家読発表会を行います。また、週一回のチェックカード、月一回の感想の記入を通して、家庭での読書活動の充実を図っています。

二 読書後の感想記入の強化
読書後、あらすじと感想を記入した読書カードを作成しています。各学年定められた四十冊から、十五冊を選んで読み、感想を書いた児童に完読賞を与えています。印象に残った本の写真と読書カードを貼り付けて読書の履歴を残し、読書活動の振り返りも行っています。

三 読書ファイルの導入
六年間自分の読書の記録を蓄積して

いけるようにしました。読書に関する自分の記録から学年を越えて振り返ることができるようになっています。

四 学校図書館との連携
国語の教科書に出てくる本を集めた国語コーナーや外国語活動のための英語コーナーの設置、並行読書を生かした言語活動の取組等、読書を軸とした授業を展開しています。

五 図書委員による推進活動
委員会児童・教職員・ALTによる朝の読み聞かせ、図書館ピンゴ、図書館クイズ等の児童の発想を生かした読書活動を行っています。

本のあらすじをどらえ、感想を書くこと等を通して、本のおもしろさに気付いてほしいという願いから読書活動を推奨してきました。一定数読み終わり、感想を書いた児童に完読賞を与える取組により意欲付けを行い、平成三十年度は八十四名中七十五名を表彰しました。

日々児童の読書への関心を高める工夫に努めています。



委員会児童読み聞かせ

話 題 の 広 場

コミュニティ大運動会

野木町立友沼小学校
神原 千里

本校に赴任した私に、前任の校長から「本校のコミュニティ大運動会はおもしろいですよ。学校と地域が一緒になって盛り上がるんです。」と引き継ぎを受けた。子どもたちや地域の関係者からも何度か聞かされたから、自他共に認める本校の特色の一つであろう。しかも十八回目というから、もう伝統の域に入る。

地域の代表者とは夏休み前に一度打合せがあったきりだが、準備も後片付けも、勝手知ったる地域の方々が進んで参加してくださり、あつという間に終わってしまった。ありがたい。

開会式から一緒に整列し、午前は小学生種目、午後は地域種目を中心にしたプログラムで、大いに盛り上がった。紅白の他に、地域対抗戦の優勝旗まである。今年度は、あいにくの雨で短縮となってしまっただが、来年もまた地域と一緒に盛り上げたいものである。



自治会別チーム対抗コミュニティゲーム

不撓不屈の精神を受け継ぐ

栃木市立赤麻小学校
中島 悦子

本校は、来年度、創立百十周年を迎える。本校の卒業生に「大正の大横綱栃木山」がいる。栃木山は春日野部屋の創設者で、部屋には「栃」のつく四股名をもつ力士が多いことは周知の事である。

栃木山の座右の銘が「不撓不屈」。この言葉は、本校の教育のベースとなっており「どんな困難も不撓不屈で頑張ろう。」と、声を掛け合って生活している。さらに、「あかまる君」という栃木山をモチーフにしたマスコットキャラクターが誕生して四年、子どもたちに親しまれている。毎年入学式には、あかまる君を紹介し、「不撓不屈」の精神を子どもたちに伝えていく。

子どもたちの未来は、予測のつかない複雑な社会。今後「不撓不屈」の四字を忘れず、自らの力でたくましく生き抜いてほしいと願ってやまない。



マスコットキャラクター「あかまる君」

事務局だより

事務局長 吉成 隆志

各地区からの要望や提案を総務部でまとめ、八月の県教委との教育懇談会では、重点を絞って協議しました。その詳細については、十月の第三回理事研修会で報告しました。

今年度の大きな大会は、関プロが千葉大会、全連小が秋田大会でした。関プロ千葉大会では、那須地区の木村加容子先生・塩谷地区の沼尾昇先生が、地区の研究成果を発表してくださいました。

経費の節減や業務のスリム化の観点から事業や予算の執行を見直し改善を図っているところですが、今年度から研修記録と調査報告書を合本として、会員の皆様にお届けすることといたしました。三月上旬にお手元に届きますので、今後の学校経営の改善・充実に活用ください。

令和三年度で開催される関プロ栃木大会に向けて、着実に準備が進められています。事前研修会の内容や準備状況については、県小学校長会ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

編集後記

四月から新学習指導要領が全面实施となります。「何を教えるか」から「何ができるようになるか」、学習する側の子ども視点に立つて授業づくりを行っていくことが必要であり、教員や学校の創意工夫がより一層求められています。教員採用試験の受験者数の減少で教員の質の低下が危惧されている今、学校現場の働き方改革は喫緊の課題となっています。また、今年度から教職員評価制度が変更になり勤勉手当だけでなく昇給にも反映されることになりました。信頼される評価をすることがなお一層求められています。

これらの課題を前にし、校長の職務にますます重責を感じ、身の引き締まる思いです。ご多用のところ、本号に玉稿をお寄せくださいました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

小山市立大谷南小学校
寺田 洋思